

# 水道局組織図(平成28年5月1日現在)

平成28年9月29日  
水道局

定数：3,864人

局長

技監

多摩水道  
改革推進  
本部

- 総務部 (155人) (危機管理、予算・決算、企画 など)
- 職員部 (63人) (職員の人事、労務管理 など)
- 経理部 (123人) (契約、出納、固定資産管理 など)
- サービス推進部 (91人) (広報広聴、営業所の指導 など)
- 浄水部 (105人) (水運用、水質管理 など)
- 給水部 (228人) (配水施設等の維持管理 など)
- 建設部 (129人) (大規模工事の進行管理 など)

- 研修・開発センター (46人) (局研修の企画・実施、技術の調査 など)
- 水運用センター (147人) (水運用の一元管理 など)
- 水質センター (64人) (水質管理の企画、水質監視 など)
- 水源管理事務所 (118人) (水源林の管理、保護・保全 など)
- 支所 (6か所、788人) (管路の維持管理 など)
- 営業所 (21か所、521人) (料金収納、委託監理業務 など)
- 浄水管理事務所 (3か所、655人) (浄水場の維持管理 など)
- 建設事務所 (2か所、152人) (大規模水道施設工事の施工 など)

- 調整部 (124人) (多摩地区の事業の管理 など)
- 施設部 (99人) (多摩地区の大規模工事の進行管理 など)
- 給水管理事務所 (2か所、256人) (多摩地区の管路の維持管理 など)

東京水道サービス株式会社

(水道施設の運転管理業務 など)

株式会社PUC

(水道料金の徴収業務、情報処理システムの運用等 など)

## 水道局における改革実施に当たっての検討経過

日付	事 項
9/1	<p>&lt;第1回都政改革本部会議&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・局内における事務事業の点検・改革を行う体制の検討を開始</li> <li>・3つの視点をもとに、「東京水道経営プラン2016」の事業検証の考え方を整理</li> </ul>
}	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在実施しているお客さまの声や職員の声を収集する仕組みを検証</li> <li>・若手職員やお客さまの声を改革に反映させる新たな取組を検討</li> <li>・検証スケジュールの検討</li> </ul>
9/9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道局の自律点検・改革の体制（事務局案）を策定</li> </ul>
9/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局で作成した体制案について、幹部と意見交換</li> </ul>
}	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務部内で体制案と方向性をブラッシュアップ</li> <li>・体制案と改革の検討方法について、各部管理部門と意見交換</li> </ul>
9/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画部門で把握している課題と改革の方向性を整理</li> </ul>
9/20	<p>&lt;自律改革の取組に関する意見交換会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手職員が意見を出しやすいよう、提案項目を整理</li> </ul>
}	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さまへのインタビュー方法、お伺いする内容の検討</li> <li>・水道局 自律点検・改革推進本部会議の開催（本庁及び事業所で事務事業の点検・改革の本格的な検討を開始）</li> </ul>
9/29	<p>&lt;第2回都政改革本部会議&gt;</p>

# 水道局の自律点検・改革の取組について

## 1 目的及び視点

東京水道の5カ年の事業計画である「東京水道経営プラン2016」を都民ファースト・情報公開・ワイズスペンディングの視点から再検証し、「水道事業の見える化」を実施

- ・事務事業の総点検なくして改革はできない
- ・若手の参加なくして斬新な見直しはできない
- ・お客さまへ直接赴き、生の声を伺い、掘り下げる

3つの視点

都民ファースト・情報公開・ワイズスペンディング

点検

※詳細は別紙参照

経営プランのコンセプト

**根源的使命の維持・進化**  
(安定、高品質)

**取組の進化・発信**  
(お客さまとの対話、地域・社会への貢献、国内外水道事業体への貢献)

**様々な脅威への備え**  
(新たな危機管理)

**支える基盤**  
(人材(財)基盤、運営体制、財政基盤)

内部統制

事務改善

事業改革

実現

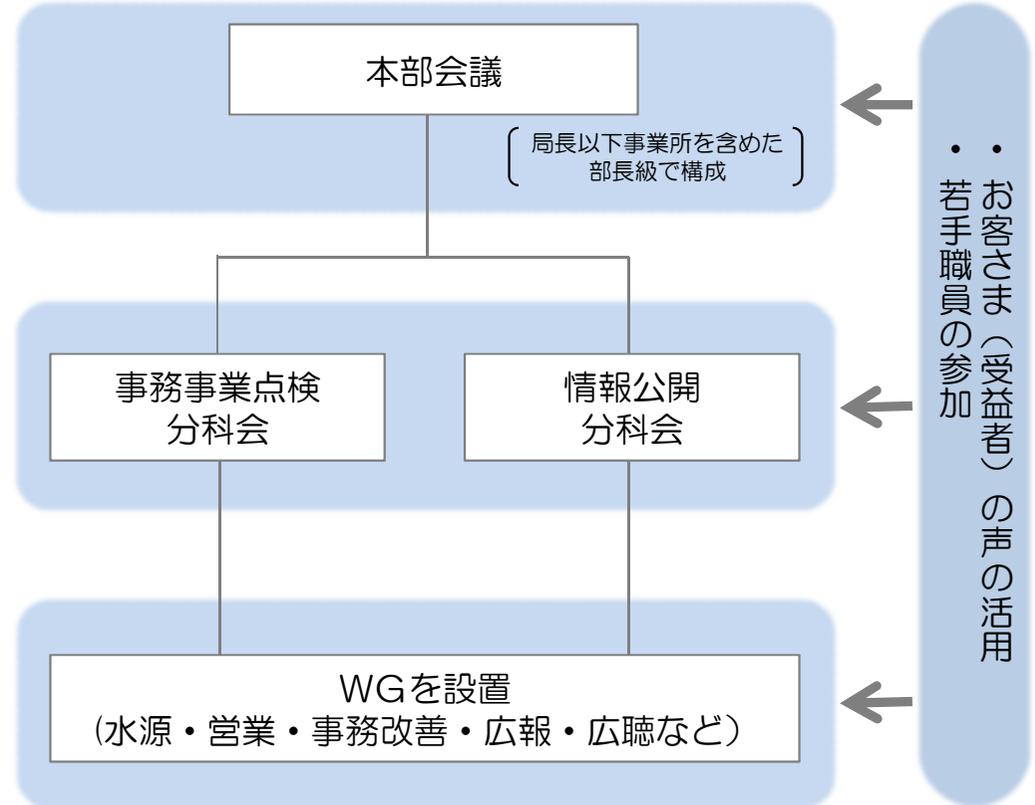
セーフシティ

ダイバーシティ

スマートシティ

東京2020大会への貢献

## 2 体制



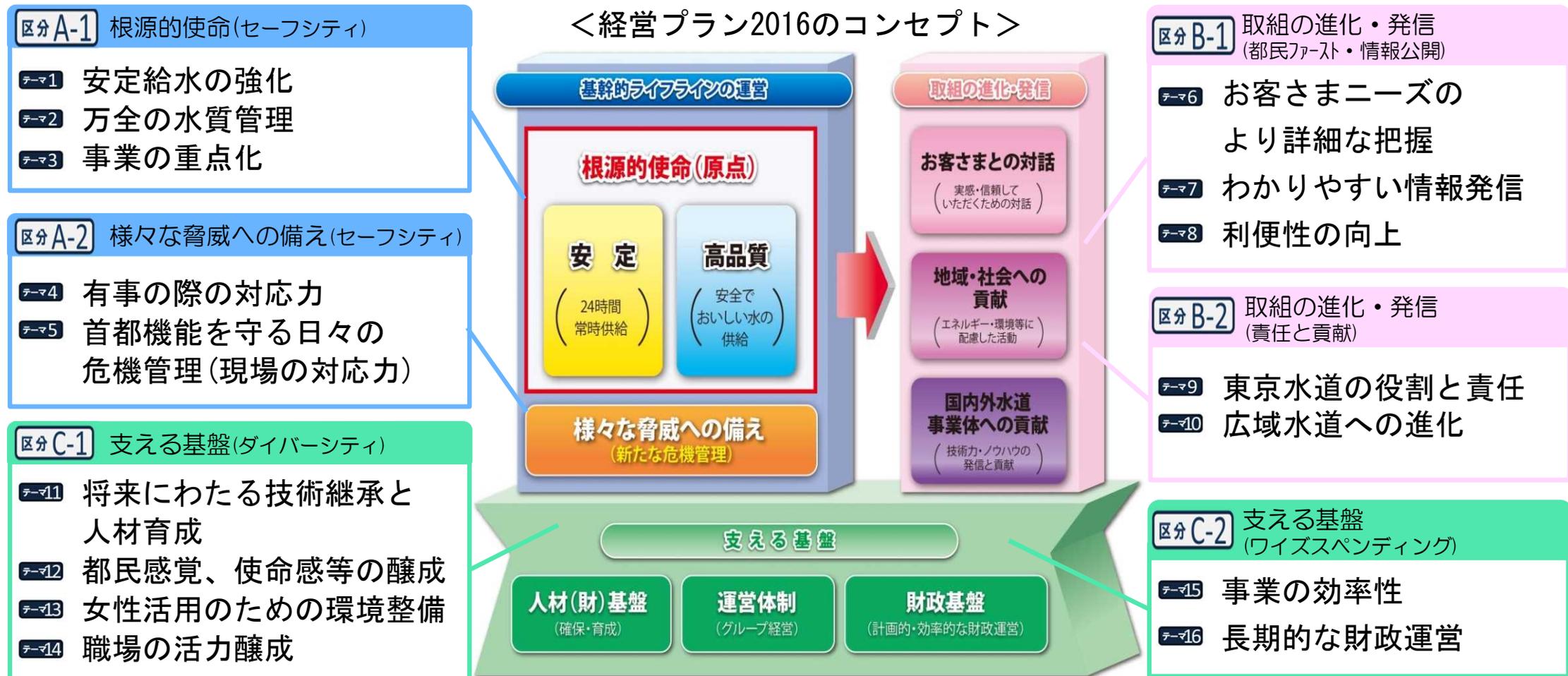
## 3 スケジュール

- ・水道局自律改革本部の立ち上げ ⇒ 9月28日
- ・全職員、お客さまから改革提案を募る ⇒ 10月1日～
- ・WG、分科会での検討 ⇒ 11月中
- ・本部会議 ⇒ 12月上旬
- ・内部統制事項・事務改善 ⇒ 順次対応
- ・事業改革事項 ⇒ 平成29年4月予算措置

# 東京水道経営プラン2016の事業検証・取組

経営プラン2016のコンセプトに対して、テーマ別に検証を行い、個別の課題を抽出する。

## <経営プラン2016のコンセプト>



若手職員の意見やお客さまの声も吸い上げたうえで、内部統制・事務改善・事業改革の3分野に分けて抽出した課題を、東京2020大会を支える基幹的ライフラインである水道の役割を踏まえつつ、整理していく。また、これらの取組を情報公開のもとで推進していく。

### 区分A-1

#### 基幹的ライフラインの運営 (セーフシティ)

- 今夏も湧水が発生。湧水への備えが脆弱
- 未規制物質による水質事故の懸念
- 東京2020大会等へ向けた、重要施設への供給ルート耐震継手化の早急な実施



24時間  
365日の危機管理

- 近隣自治体との水の融通等、新たな方策を検討
- 不測の事態に備えた日々の水質管理の強化
- 重要施設への供給ルートの変更などを検討

### 区分A-2

#### 様々な脅威への備え (セーフシティ)

- 地震に加え、テロ・火山等新たな脅威への備え
- 警視庁から、当局の安全確保について、改善の提案



- 施設の覆蓋化や管路のネットワーク化を推進
- テロ等さまざまな状況を想定した訓練の実施

### 区分B-1

#### 取組の進化・発信 (都民ファースト・情報公開)

- お客さまから検針票の文字が見えにくいなどの意見
- 区部と多摩地区での業務の差異に、違和感



- 端末の仕様を改善し、視認性を向上
- 区部・多摩の統合経過を踏まえ、業務差異を解消

### 区分B-2

#### 取組の進化・発信 (責任と貢献)

- 運営体制、広域化について、他自治体から視察の要請
- 地方都市から技術支援のニーズ



- 技術力・ノウハウを活用した国内貢献

### 区分C-1

#### 支える基盤 (ダイバーシティ)

- 20年、30年先においても、現場の経験と専門知識等を持った多様な人材が引き継がれていく必要



- 世代交代を経ても、優れた人材や技術等を継承していく仕組みの検討

### 区分C-2

#### 支える基盤 (ワイスペンディング)

- 単年度予算に加え、5年間の中期計画を策定しているが、より長期的な視点が必要

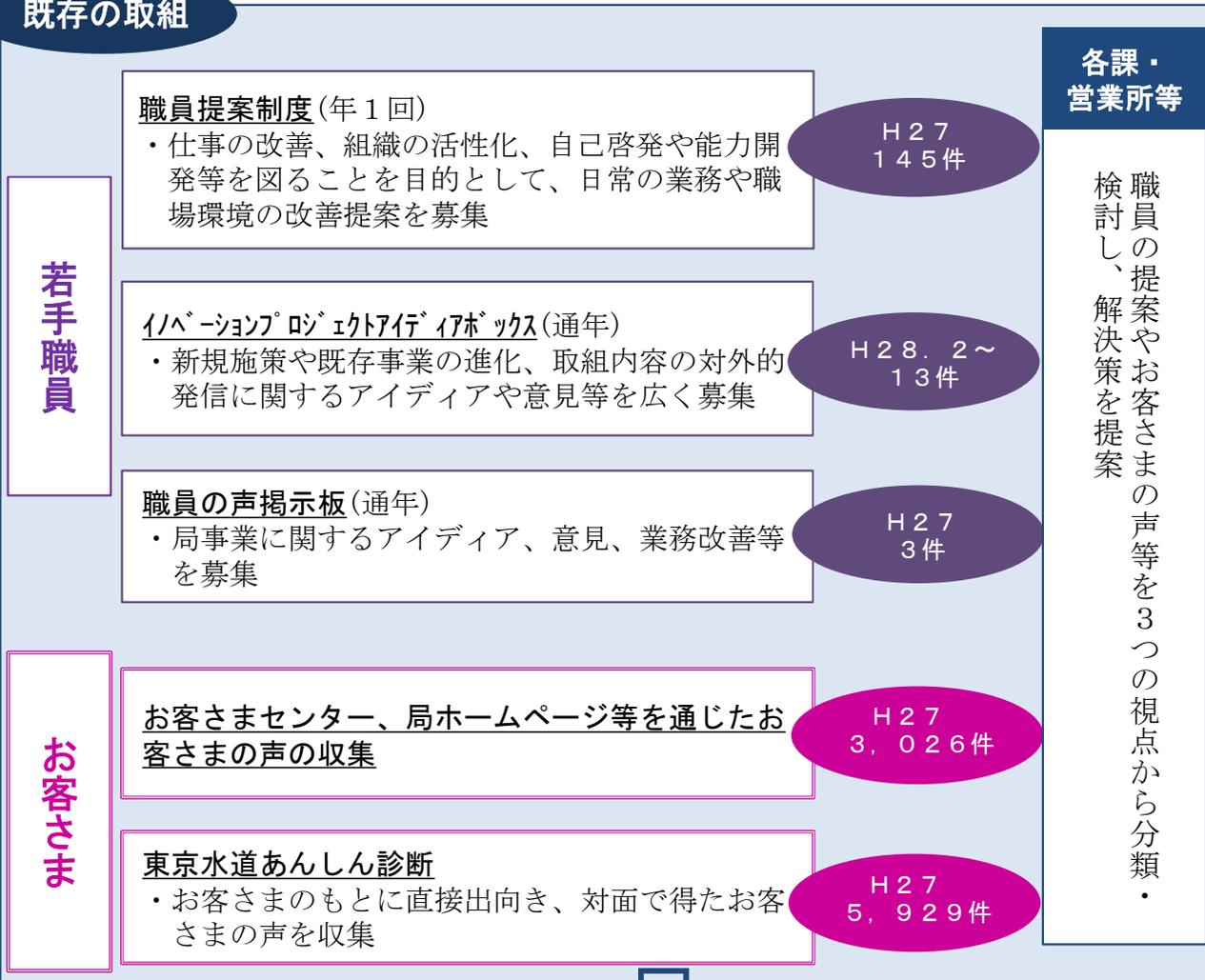


- 20年、30年先を見据えた財政見通し(施設の更新サイクルは60年間)

若手職員、お客さまの声を十分に吸い上げ、幅広く見直しを実施

既存の取組に加え、「都民ファースト」、「情報公開」、「ワイズスペンディング」の3つの視点を踏まえた職員からの提案や水道事業の改革についてのお客さまからの提案を募集

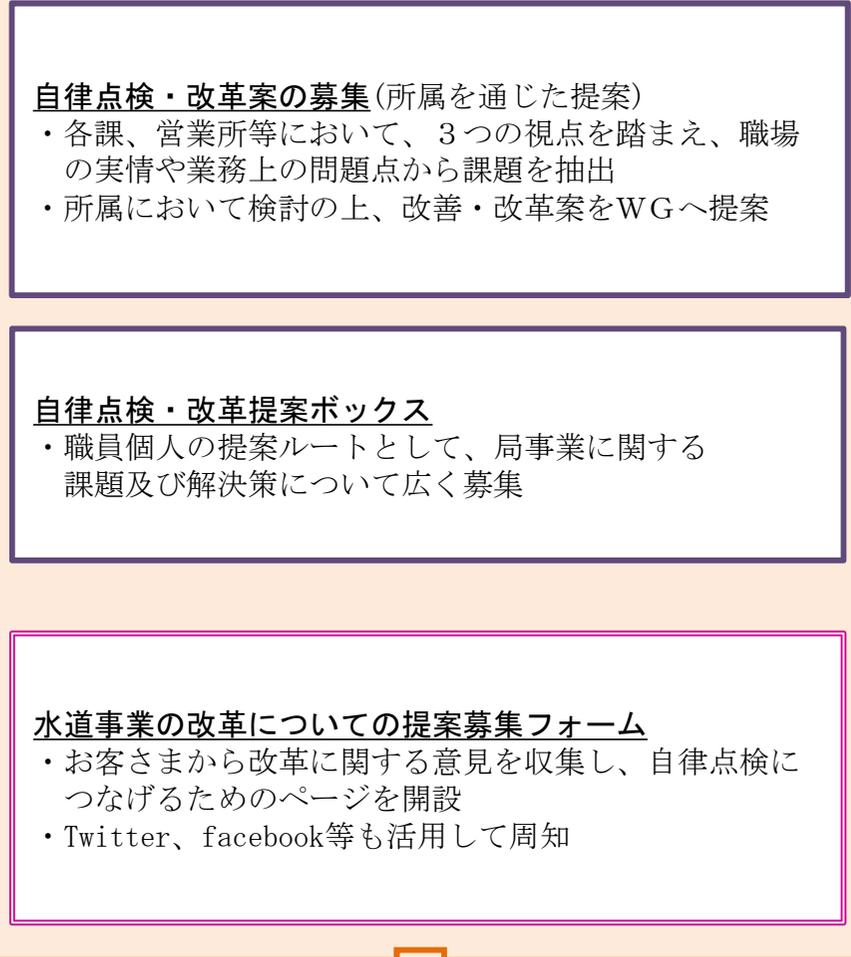
## 既存の取組



## 各課・営業所等

職員の提案やお客さまの声を3つの視点から分類し、検討し、解決策を提案

## 新規の取組



## 推進本部(WG)

- ・必要に応じ、提案者へのインタビュー等により深掘り
- ・若手職員の参加により発言の機会を確保
- ・3つの視点で課題の把握、原因の究明、解決策の検討を実施